

第 172 回 第二次世界大戦①

1 第二次世界大戦の勃発

- ・1939年8月、ドイツはイギリス・フランスに不信感を持っていたソ連との間に（ ）を結び、世界に衝撃を与えた。



独ソ不可侵条約

左からドイツ外相リッペン、中央がスターリン、右はソ連外相モロトフ。ソ連は、イギリスとフランスがドイツに譲歩し続けるため、逆にドイツに接近することで安全を確保しようとした。



独ソ不可侵条約の風刺画

犬猿の仲であるはずの両国の接近は、ファシズムと共産主義の結婚と皮肉られた。見つめあうヒトラーとスターリン。ぶっちゃけ気持ち悪い風刺画である。

- ・さらなる領土拡大をねらうドイツは、ポーランドに対して（ ）と自由市（ ）の割譲を要求していた。
→ポーランドは拒否し、英仏と相互援助条約を結んだ。
→（ ）年9月、まずドイツ、続いてソ連が（ ）した。
→英・仏がドイツに宣戦布告し、（ ）がはじまった。
→圧倒的なドイツ軍の電撃戦によって、ポーランドは占領された。
- ・またソ連は、（ ）に侵入し、1940年に併合した。
- ・さらにソ連は（ ）のカレリア地方にも侵攻した（冬戦争）。
→ソ連は、フィンランドへの侵略行為を非難されて国際連盟を除名された。



国境を破壊してポーランドになだれ込むドイツ軍



質、量ともに圧倒的な戦力のドイツ軍に対して、ポーランド軍はよく善戦したが、3週間でほぼ壊滅させられた。ポーランドはドイツの戦車に馬で立ち向かったらしい…。



フィンランドのスキー兵

3倍のソ連軍に対し、フィンランド軍は、真っ白い服でカモフラージュされたスキー兵などを用いて、ゲリラ的な抵抗を続けた。

2 フランスの降伏

- ・1940年4月、ドイツは、中立国である（ ）と（ ）に侵入し、これを占領した。
→しかし英・仏が早期解決を期待したため、本格的な戦闘は行われなかった。

- ・1940年5月、ドイツは、中立国である（ ）と（ ）に侵入して占領し、そこからフランスに侵入した。
→イギリスの宥和政策は破綻し、ネヴィル=チェンバレン首相は辞任した。
→保守党の（ ）を首相として挙国一致内閣が成立した。
→イギリスは激しい空襲に耐えて、ドイツの上陸を阻止した。
- ・また（ ）もドイツの優勢に便乗して参戦した。



チャーチル
第一次世界大戦時は、海軍大臣として戦車の開発にも関わった。ナチス嫌いで知られ、葉巻にVサインがトレードマーク。

- ・優勢なドイツ軍は、1940年6月にパリを占領し（ ）した。
 →（ ）を中心とする親ドイツの（ ）が置かれた。
 →亡命した軍人の（ ）は、ロンドンで（ ）
 を樹立し、ドイツに対する抵抗運動をよびかけた。



ダンケルクのイギリス軍

アルデンヌの森を突破したドイツ機甲師団に背後をつかれたフランス軍は、あっという間に壊滅した。だがイギリス軍はダンケルクから奇跡的に撤退した。



パリ占領



ベタン

ヒトラーは、占領したパリを訪れてエッフェル塔の前で記念写真を撮った。この時が人生の絶頂だっただろう。ベタンは覚えているかな？



ド=ゴール将軍

身長2メートルのド=ゴール将軍は、亡命先のロンドンから、BBCラジオでドイツとヴィシー政府への抵抗を訴えた。

3 独ソ戦の開始

- ・1941年4月、ドイツは（ ）に侵攻してこれを制圧した。
 →ベッサラビアを占領していたソ連との関係が、急速に悪化した。

- ・占領されたユーゴスラヴィアでは、（ ）が（ ）
 を組織して、ドイツに対するゲリラ的な抵抗を続けた。
- ・1941年6月、ドイツは独ソ不可侵条約を一方的に破棄してソ連へ侵攻した。
 →（ ）が始まり、ドイツは快進撃を続けモスクワに迫った。



テイトー
 父はクロアチア人、母はスロヴェニア人である。山岳地帯でのゲリラ戦でドイツを苦しめた。

